

令和6年度愛知県特定健診・特定保健指導研修会（事業運営編）

研修実施報告

1. 日程・内容等について

【目的及び趣旨】

保健指導チームのリーダー的立場にある専門職や特定保健指導事業の運営責任者が、特定健診・特定保健指導プログラムの基本理念や制度を理解し、対象のニーズに合わせたプログラムを常に立案・評価・改善しようとする態度を身につけ、ソーシャルマーケティングの基本的スキルを修得することにより、特定健診・特定保健指導事業をマネジメントできるようになることを目的とする。

【日時】

令和7年1月8日（水）午前10時から午後5時まで

【対象者】

愛知県内の医療保険者、健診・保健指導機関、市町村、事業所等で、特定健診・特定保健指導の事業運営に携わっている職員のうち、(1) もしくは (2) に該当する者

- (1) 保健指導チームのリーダー的立場にある専門職
- (2) 特定保健指導事業の運営責任者（事務担当者等）

【方法】

来場型研修

【カリキュラム】

計 380 分

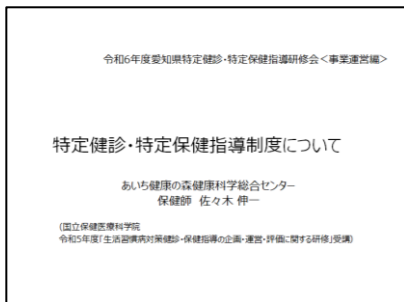
時間	内容	ねらい
研修会前 (30分)	動画視聴とワークシート記入 「特定健診・特定保健指導制度について」 健康支援事業部健康支援事業課 課長 佐々木 伸一 事前の視聴が困難な方は、当日会場にて9:30より再生いたします。	特定健診・特定保健指導制度の目的、制度、仕組みについて概説できる。
9:15	受付（9:55までに必ず入室してください）	
10:00	開会・プログラム責任者挨拶・オリエンテーション	
10:15 (10分)	講義・演習 「1. 特定健診・特定保健指導制度について」 健康開発部健康増進課 主任 中村 誉	特定健診・特定保健指導制度の目的、制度、仕組みについて概説できる。
10:25 (45分)	講義 「2. 研修（ワークショップ）の進め方」 健康開発部 部長 平川 仁尚	研修の手法の一つであるワークショップについて体験し、他機関との関係性を築く。
(10分)	休憩	
11:20 (80分)	講義・演習 「3. 保健事業におけるソーシャルマーケティングの基本的スキル（PDCAサイクルを含む）」 健康開発部 部長 平川 仁尚	ソーシャルマーケティングの基本的なスキル（PDCAサイクル、質的内容分析などを含む）について学び、保健事業の立案・評価・改善について学ぶ。
12:40 (30分)	昼休憩 アフターランチセッション中も会場内で食事をおとりいただけます。	
13:10 (45分)	アフターランチセッション 「健診・保健指導の意義について語ろう」 健康開発部 部長 平川 仁尚	健康支援の意義について、意見交換する。
(5分)	休憩	
14:00 (80分)	講義・演習 「3. 保健事業におけるソーシャルマーケティングの基本的スキル（PDCAサイクルを含む）」 健康開発部 部長 平川 仁尚	ソーシャルマーケティングの基本的なスキル（PDCAサイクル、質的内容分析などを含む）について学び、保健事業の立案・評価・改善について学ぶ。
	シナリオトレーニング・プレゼンテーション 「4. 魅力的な特定健診・特定保健指導事業をプランニングする」 健康開発部 部長 平川 仁尚	研修での学びをもとに、プログラムを検討する。グループで意見を共有し、自機関での保健事業に役立てる。
10分	休憩	
15:30 (60分)	講義・演習 「3. 保健事業におけるソーシャルマーケティングの基本的スキル（PDCAサイクルを含む）」 健康開発部 部長 平川 仁尚	ソーシャルマーケティングの基本的なスキル（PDCAサイクル、質的内容分析などを含む）について学び、保健事業の立案・評価・改善について学ぶ。
	シナリオトレーニング・プレゼンテーション 「4. 魅力的な特定健診・特定保健指導事業をプランニングする」 健康開発部 部長 平川 仁尚	研修での学びをもとに、プログラムを検討する。グループで意見を共有し、自機関での保健事業に役立てる。SEAによる振り返りの手法を学ぶ。
16:30 (30分)	全体のまとめ・質疑応答	
17:00	閉会	

本年度は「誰もが受けたくなる魅力的な特定健診・特定保健指導事業の運営スキルを身に着ける」をテーマに、講義とワークショップ形式の演習、討議を行いました。演習・討議は、参加者の属性（医療保険者・事業所、健診・保健指導機関、市町村）を考慮したグループ（各6名程度、11グループ）で行いました。

「特定健診・特定保健指導制度について」

研修参加前に動画にて、あいち健康の森健康科学総合センター健康支援事業課長の佐々木より、本制度の基本的な考え方と第4期計画の見直しの概要について講義を行った。

動画視聴後、事前課題に回答し、研修当日に健康増進課主任の中村より解説を行った。



「研修（ワークショップ）の進め方」

あいち健康の森健康科学総合センター健康開発部長の平川より、本研修会の研修様式であるワークショップの進め方について講義を行った。また、ワークショップの効果についても解説した。その後、ワークショップを円滑に進めるためのアイスブレイクとして、参加者同士で他己紹介を行った。



「保健事業におけるソーシャルマーケティングの基本的スキル（PDCA サイクルを含む）」

健康開発部長 平川よりソーシャルマーケティングの基本的なスキル（PDCA サイクル、質的内容分析などを含む）について、講義しました。ヘルスビリーフモデルや計画的行動理論などの健康教育理論とソーシャルマーケティングの基本やプロセスについて講義しました。その後、実際にニーズ評価のためのKJ法、二次元展開法などの作成を演習として実施しました。



2. 申込について

【申込者数】66人（男：7人、女：59人）

【所属別（人）】

医療保険者	健診・保健指導機関	市町村	事業所
14	12	27	13

【職種別（人）】

保健師	管理栄養士	事務職	その他運営責任者
36	11	15	4

【保健指導の計画・評価に関する経験年数別（人）】

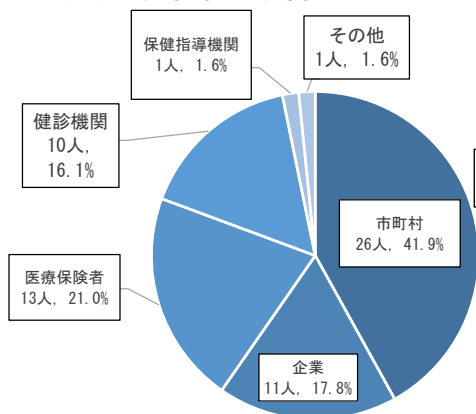
経験なし	1～2年	3～6年	7～12年	13年以上	未回答
29	13	13	7	3	1
		※第3期（2018～2023年）経験相当	※第2期（2013～2017年）経験相当	※第1期（2008～2012年）経験相当	

※特定健康診査等実施計画

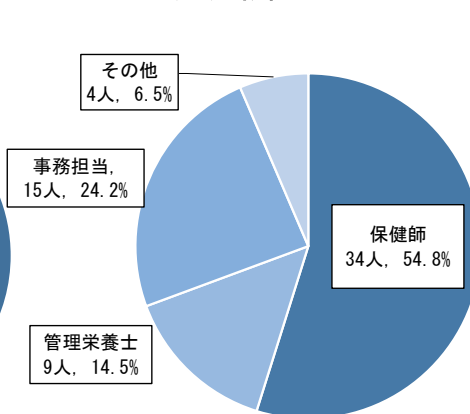
3. アンケート結果について

【回収状況】参加者62人のうち、62人から回収（回収率100%）

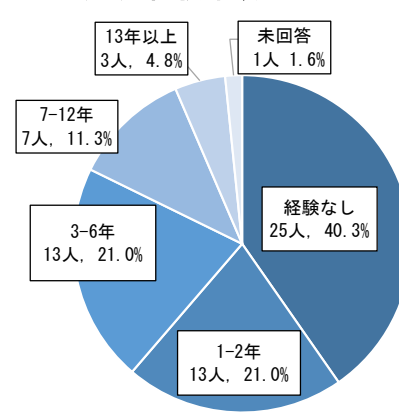
（1）回答者の所属



（2）職種

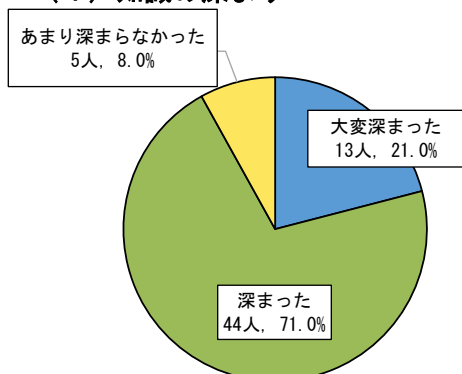


（3）経験年数

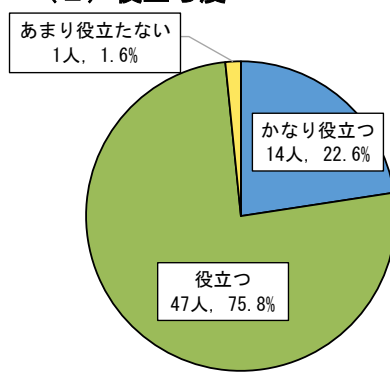


【質問項目のまとめ】

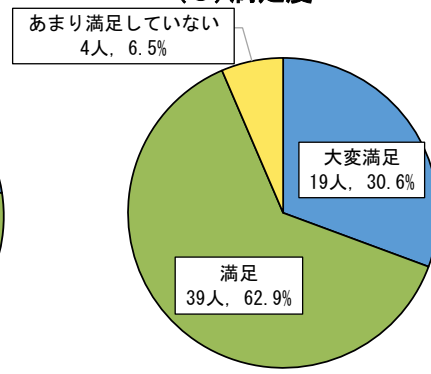
：（1）知識の深まり



（2）役立ち度

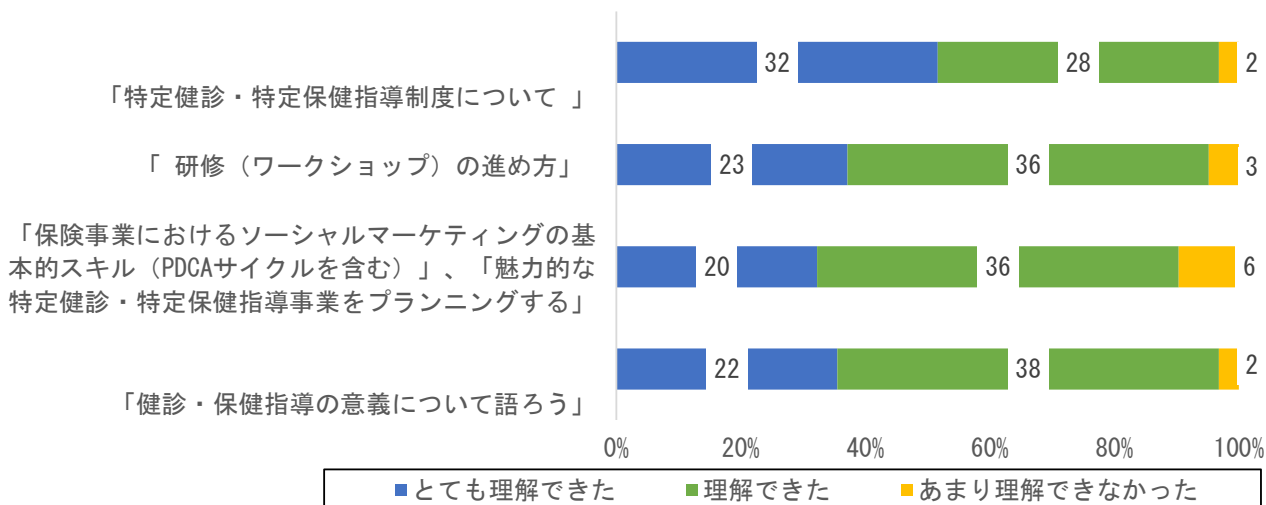


（3）満足度



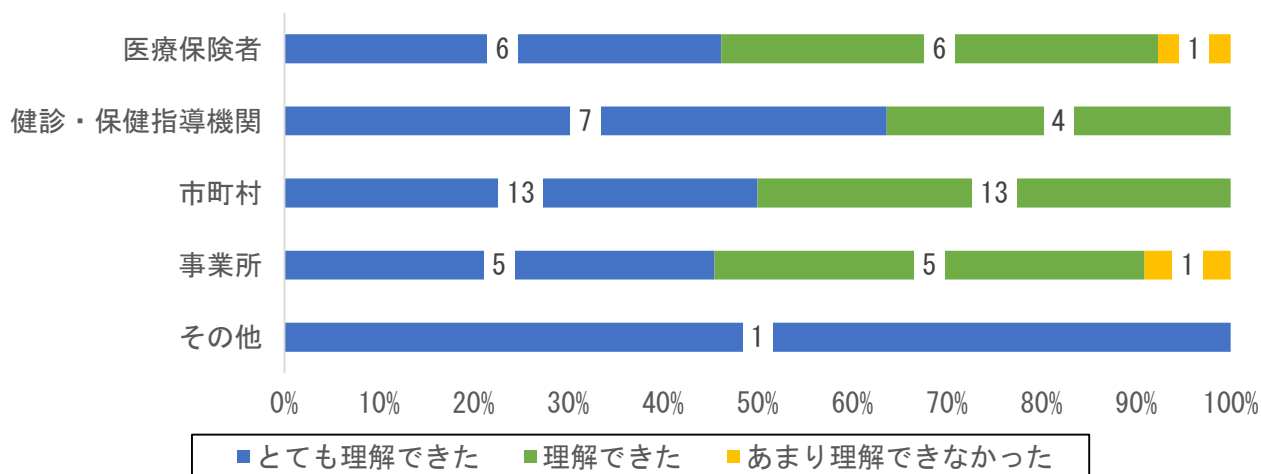
(4) カリキュラム別 理解度 (n=62)

(人)

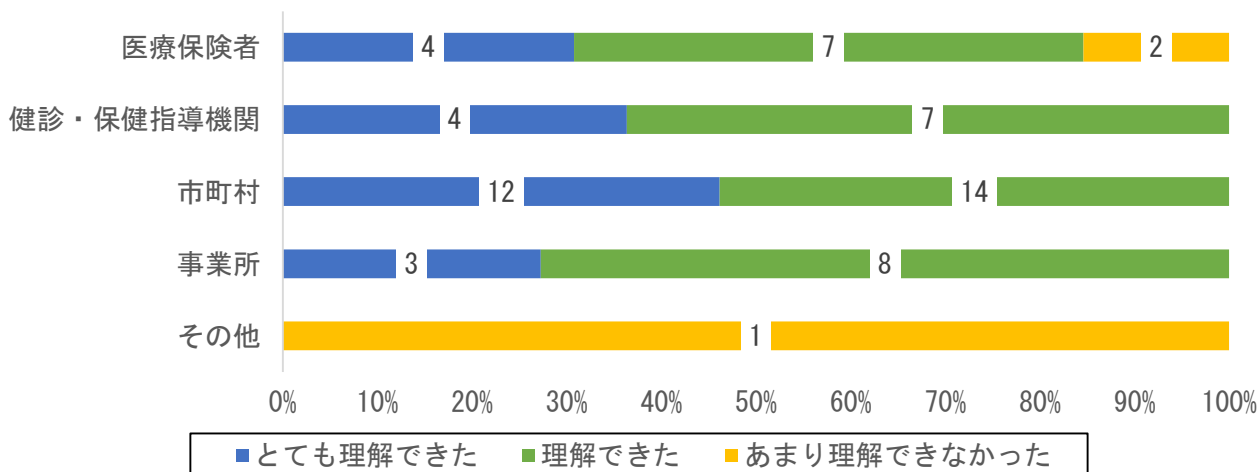


(5) 所属別 理解度 (n=62)

「特定健診・特定保健指導制度について」

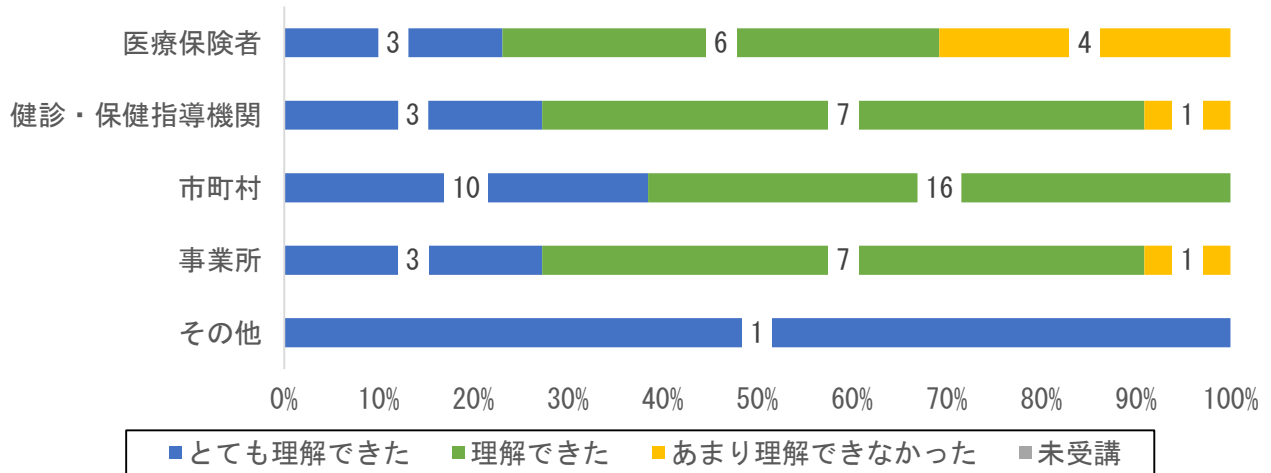


「研修（ワークショップ）の進め方」

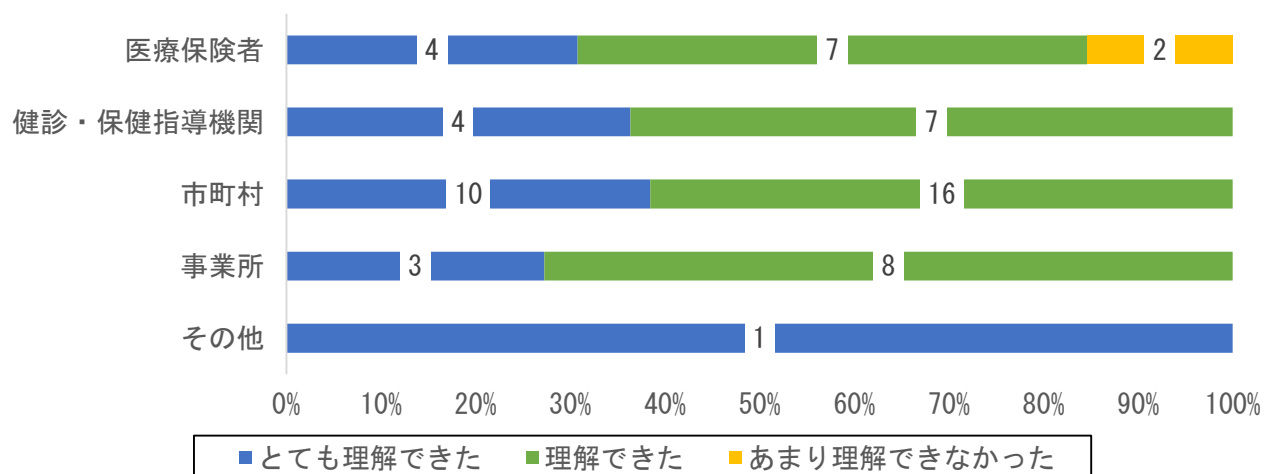


「保険事業におけるソーシャルマーケティングの基本的スキル（PDCA サイクルを含む）」

「魅力的な特定健診・特定保健指導事業をプランニングする」



「健診・保健指導の意義について語ろう」



(6) 参加者の感想（自由記載から一部抜粋）

<研修全体について>

- ・ KJ 法など新しいワークショップが楽しかった。
- ・ 本格的なワークショップ体験は初めてだった。
- ・ 問題点を掘り下げる方法を学ぶことができた。
- ・ 他の自治体・企業等と交流しつつ事業運営の検討方法について体験学習ができてよかった。
- ・ グループワークを通して共感する意見や自分では考えつかない意見がたくさんあった。
- ・ 座学だけではなく、他機関とのコミュニケーションが有意義だった。
- ・ 方法の解説後すぐに GW での実践があったのでわかりやすかった。
- ・ 職場に帰っても職員同意でディスカッションを定期的に行い地域の実情を踏まえ、課題の明確化、解決策の抽出を行いたい。
- ・ チームでの仕事の進め方や意見の取りまとめなど、結果へつながるプロセスを学ぶことができた。

- ・業務が忙しい中の参加だったので、時間が短いと嬉しいと感じた。
- ・時間が短く感じた。日程をもう少しゆったりしてほしい。
- ・グループワークの時間が短かった。講義で学習できる時間が多いとありがたい。
- ・単発の研修でのワークショップでしたが、業務の違いもあったため同じ課題をもつ人同士で実施できれば、体験だけではなくもう少し深い意見出しにつながったように思った。

<次回研修会の要望>

- ・PDCAのC（評価）→A（改善）について、より詳しい内容（好事例の紹介など）を学びたい
- ・市民の心を動かすアプローチ方法
- ・評価の具体的な方法
- ・アウトカム評価の方法
- ・保健指導の介入前後の状態の発表と統計
- ・他市町の特定健診、特定保健指導の実施方法や勧奨方法
- ・企業が行う健康へのアプローチ方法
- ・健診データの扱い方、分析
- ・データヘルスについて
- ・ナッジ（行動経済学の概念）について
- ・事務処理について、運用の具体的な事例
- ・第4期特定保健指導について
- ・健診施設で起こっている運営上の問題を特定保健指導制度改善のためにフィードバックする機会
- ・実施率を上げられない問題点を現場から吸い上げる機会

4. 修了状況について

参加者 62 人のうち、全プログラムを受講した者 61 人（98.4%）に、本研修会の修了証を交付しました。